

# 事業報告書

## 第3期

自 平成27年4月1日  
至 平成28年3月31日

NPO法人富士山の森を守るホシガラスの会

静岡県御殿場市中畑1691-14

## 平成27年度事業報告

### 1. 事業の実施に係る事項

#### 1) 富士山に残されている天然林を保全、活用する事業

《事業》植生防護柵の点検、周辺部の食害調査

《目的》須山口周辺に設置した4基の柵の点検および修復、植生復元状況の確認など。

《実施日》4/1・5/6・7/22・9/30・12/2

《内容》破損等の点検、ステーの緩み修復、植生回復状況の確認と記録、周辺地域の食害状況の目視調査、写真撮影による記録。

《事業》大蔵高丸植生防護柵見学

《目的》先進事業での植生防護柵の効果を見学

《実施日》9/15

《内容》環境省自然公園指導員の半場良一氏が甲州市大蔵高丸で取り組んできた植生防護柵の効果などについて、半場氏の案内で現地研修を実施。役員、会員7名、栗井英朗環境財団理事長栗井晶子氏が参加。【※ 大蔵高丸植生防護柵見学会リポート】

《事業》富士山自然誌研究会フィールドワーク、観察会に参加

《目的》水ヶ塚松丸尾溶岩流周辺の自然環境を学ぶ

《実施日》10/17 2/21

《内容》各分野の先生方による現地レクチャーが行われた。

《事業》東白塚への植生防護柵設置

《目的》草原環境の貴重な植生を保護

《実施日》10/20

《内容》静岡森林管理署、常葉大学環境防災研究所、常葉学生と協働で大小2基の植生防護柵を設置した。(26名が参加)

《事業》樹皮防護ネットの設置

《目的》ニホンジカによる樹皮の被食のため多発している立ち枯れを防止

《実施日》11/20 12/18

《内容》静岡森林管理署、常葉大学環境防災研究所および学生と協働で実施した。

須山口下山歩道で防護が必要な樹木の確認作業、旧須山口周辺部でネット設置作業を実施した。(26名が参加)

《事業》ニホンジカ対策、植生防護柵の効果等の発表および意見交換

《目的》ニホンジカの食害等についての情報交換

《実施日》10/29

《内容》富士常葉大学環境防災研究所、常葉大学山田辰巳教授および学生、静岡森林管理署、当会より植生防護柵の効果、センサーカメラによるニホンジカの記録などをスライドで発表した。

《事業》センサーカメラによる動物調査

《目的》動物の生息調査およびニホンジカの状況調査

《実施日》4/12・5/8・8/4・8/6・9/30・11/3・11/4・12/2・11/15

《内容》旧須山口登山道周辺部(御殿場市)、旧水ヶ塚遊歩道周辺(裾野市・富士市)、須走口登山道周辺部(小山町)の森林にセンサーカメラを設置し動物調査を継続。旧須山口周辺部に設置した4台のカメラによる2013年秋から2015年春までの16ヶ月の記録により得られた動物の活動記録を分析しニホンジカの季節変動などが明らかになった。新たに設置した2箇所の記録分析を動物学者今泉忠明氏に依頼した。

《事業》静岡県、静岡森林管理署主催の講演会、報告会に参加

《目的》富士山の変化する自然、北麓の外来種対策、ニホンジカ対策について学ぶ

《実施日》3/12 3/16

《内容》静岡県富士山ネットワークの勉強会、静岡森林管理署によるニホンジカ対策の報告会に参加し、当会が取り組む課題への認識を深めた。

## 2) 富士山の森林で過去に失われた生物多様性を復元し、水源涵養力を保全するための事業

《事業》国有林の富士山クラブ西白塚ウラジロモミ人工林の混交林化計画

《目的》人工林を天然林に復元するための実験

《実施日》12/8

《内容》当会学術顧問渡邊定元農学博士の指導によるウラジロモミ間引き計画で、富士山クラブ森林保全プロジェクトとともに伐採木の選定作業に参加した。

## 3) 地域の環境教育に富士山の自然環境を活用する事業

《事業》御殿場口雪代堆積地の植生についての勉強会

《目的》将来の環境教育に活用するための予備的調査

《実施日》6/20

《内容》元静岡県自然環境調査委員会植物部会員の佐藤孝敏氏による雪代堆積地の自然環境と侵入植物について調査を兼ねた勉強会を実施した。

《事業》御殿場西高等学校の環境学習に協力

《目的》里山環境の森を学ぶ

《実施日》10/18

《内容》御殿場市御胎内清宏園での自然観察学習に講師として協力

《事業》静岡森林管理署の富士山国有林見学会に協力

《目的》現地の自然環境と森の成り立ちなどを解説

《実施日》11/5

《内容》静岡森林管理署主催の国有林見学会に同行し、写真などを使用して自然環境の解説を行った。植生保護柵の見学では食害発生前の写真などの資料を提供。

《事業》パネル展示

《目的》森林保全活動の重要性と意義の啓発

《実施日》4/10～5/6(秩父宮記念公園) 5/14(YMCA東山荘) 6/24～7/7(静岡県庁) 7/18(長泉町)

《内容》「富士山の森と生物多様性」をテーマのパネル約100枚を展示。

#### 4) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

《事業》 御殿場口雪代堆積地の生物多様性保全

《目的》 急速に増加している侵入植物を駆除するためのハンドブック作製

《実施日》 現地調査 5/27 5/30 7/19 9/6 10/4

《内容》 富士山自然誌研究会の大嶋章氏による現地調査、元静岡県自然環境調査委員会植物部会員の佐藤孝敏氏の調査および監修で雪代堆積地の侵入植物91種を収録したハンドブック(530部)を御殿場市市民協働型まちづくり事業として作製した。

《事業》 第2回セミナー(公開勉強会・富士山樹空の森)

《目的》 御殿場口雪代堆積地の実態について学ぶ

《実施日》 2/28

《内容》 元静岡県自然環境調査委員会植物部会員の佐藤孝敏氏と明治大学数理学部現象数理学科の特任准教授佐藤一氏を招き、それぞれ専門家としての立場から御殿場口雪代堆積地の自然環境の実態について講演。県、地元自治体、関係団体など約40名が参加。

《事業》 静岡県環境局自然保護課富士山保全班主催の外来植物ミーティングに参加

《目的》 外来植物等の実態、問題を共有する

《実施日》 3/3

《内容》 各市町、環境団体が参加し、それぞれの活動、実態の紹介などを行った。ハンドブック「富士山御殿場口雪代堆積地の侵入植物」などを配布した。

※ 活動の中で纏めたりレポートなどはホームページで公開している。

## 2. 総括

官、民、学と協働での環境保全への取り組みをさらに深めることができた。今後も調査研究、活動について積極的に情報発信をし、活動の幅がさらに多方面へと広がることを期待される。